

ジャグパル

JugPal

2008年4月6日 第40号



インタビュー

【桜子さん】

今回は女性パフォーマーの「桜子」さんの登場です。

『美少女戦士・桜子』がジャグリングで悪を倒すという、奇想天外なキャラクターショーで人気急上昇中の、はちきれんばかりの元気な桜子さんにお話を伺いました。桜子さんの確たる信念と自分を信じる力、そして人を呼び寄せる運の強ささえも感じさせるインタビューでした。

ジャグリングにはいつ、どこで出会ったのですか？

きっかけは、大学(註:愛知県にある福祉系大学)のキャンパス内で「大道芸サークル」が練習しているところを偶然に通りがかり、既に入部していた友達に『何してるの?』と声をかけ、その場で道具を遊び感覚でいじり始めたことでした。すぐにその面白さにハマってしまい、サークルに入部して活動し始めるようになったんです。

でもジャグリングのパフォーマンス自体は、大須大道町人祭で初めて見て、『へえ～“ジャグリング”っていうのはこうやって人に見せることができるんだ!おもしろい!』と改めてその魅力にハマりました。

ジャグリングのどこに惹かれたのですか？

小さい頃からピアノをやっていて、ピアニストになりたいと思ったこともあり、人前での表現活動には興味がありました。また、性格的には、好奇心が強く、色々なことに興味を持って、特に変わったことが大好きで、それに負けず嫌いで、ジャグリングを友達とやっていると負けたくなくて競って練習して...そうやって遊び感覚で身につけたという感じですね。

スポーツは嫌いなので、ジャグリングは運動しているというより遊んでいるという感覚で覚えることができ、しかもジャグリングという手段を使って人前に立ち、自分も楽しんで、人も楽しんで喜んでくれる...なんて素敵なコミュニケーション手段であり、表現方法なんだろう、こんな都合の良いものがあったらいいの!?!と思ったくらいです。

今までの活動は？

大道芸デビューは大学3年生の時、福祉施設などでの経験を積んで、ゲリラ的に路上で演(や)ったりして、時にはおまわりさんに職務質問を受けたこともありました。

= で、感触はどうでした? =

意外とイケるなあーっ!って思いました。(笑) 大道芸って男性が演っているイメージがあるから、女性が演っていると近づきやすいね、とか気軽に安心して見られるね、そんな言葉を女性の方々からかけてもらい(ちから)になりました。



桜子さんと桜子2号

大須大道町人祭にあこがれて、2003年にサークルの先輩とコンビを組んでアマチュアコンテストに参加し優勝してから、夢がどんどん膨らんで、静岡に出たい、ヨコハマ大道芸にも出たいと思うようになりました。

好奇心もチャレンジ精神も人一倍あるので、もっと自分自身を高めたいと思い、東京に活動の拠点を移しました。東京での生活は練習するにしても舞台鑑賞にしても、学びたいものや観たいものが身近にあるので、刺激に溢れていて楽しいです。

2006年にヘブンアーティストのライセンスを取得してから、顔を知ってもらえるようになり、静岡にも出場でき、今年はヨコハマ大道芸にと、大勢の人前に出る機会がだんだんと増えてきたような気がします。

特に人には恵まれていて、例えば東京には何のツテもなくチャレンジ精神だけで出てきたにも関わらず、その都度丁度良いタイミングで求めている人に出会えたり、支えてくれる人がいたりして、本当に恵まれていると感謝しています。

「美少女戦士桜子ショー」はどのようにして誕生したのですか？

2006年の大須の大道芸コンテストで『美少女戦士桜子ショー』を初めて演じました。

そのコンテストの一週間前位にフツと思いついたんです…天(そら)から何かが降りてきた感じで、『あれっ、私、今ナンカ面白いこと思いついたかも！？』

『出たわねえ！』というセリフがまず浮かびました。そのひらめきをもとに今のキャラクターショーの原形を仕上げたんですが、特段アニメに興味があった訳ではなく、ネタを思いついてからDVDを借りてセリフとかボージングを研究しました。

どうしてそんなことが突然にひらめいたのかは分かりませんが、それまでパフォーマンスをしていて男性ファンはつくけれど、女性ファンがつかないと悩んでいた時期があって、小中高生のあこがれの存在になりたくて、そう言えば自分の昔の“あこがれ”って何だっけと考えた時、アニメのキャラクタになりたかったなあー、なんてことを今思い出しました。そう、女の子の“あこがれ”になりたかったんです。でもそれは後付けの理由かもしれない。ひらめきって、いつも突然、特に移動中(バスの中とか)にフツと思いつくから。

確かにこのショーをやり始めて女の子のファンがつくようになりました。例えば衣裳に興味を持って女の子が『かわいい～、着たい、着たい！』とか、それに以前より同世代の女性にも受け入れられるようになって、幅広いお客さんが応援してくれるようになりました。



女の子が一杯来てくれるのが嬉しいんです！！

ショーではジャグリングの技を見せようとは思っていないので、ジャグラーとして見られるよりもキャラクターとして見られる方が嬉しいですね。キャラクターが先に立って、あれっ意外と技もできるじゃん…みたいな。

初めて演じたコンテストではスベったものの、どうしても形にしたいくて、同年のヘブンアーティスト審査会で構成を練り直して演ったら笑いがとれたんです。



大須のコンテストから数えてたった二回目なのに好評をいただき、過大評価かなとも感じ正直戸惑いがあったんです。実は、半分ノリで演った感じだったんで。(笑)

ショーで気をつけていることは？

お客さんとのコミュニケーションですね。自分とそこにいるお客さんとで“空気”を創りたいんです。パフォーマンスの空間だけ周りとか色が違うような、そして自分を見てくれているお客さんを私の“空気”に引き込みたいんです。だから一人一人をできるだけ見るようにして、やりとりをできるだけ多くの人としようと心がけています。

これからは？

演っていること(自分のショー)にはなかなか自信は持てないけれど、

自分の感性は信じているし、人と何か違うものを持っていると思うので、それを形にしていくのが課題

だと思っています。男性とはまた違う女の子ならではの感性を生かした今までにないショーを創りたい、そうオリジナルスタイルの『桜子』を創りたいんです。

常に一歩先は考えているけれど、当面今は、

1. たくさんの人に「桜子」を見てもらうこと。
2. 地元(故郷の九州)で演じること。
3. 演者の人間が見えてくるような舞台作品を創り演じること。

が目標かな。

桜子オフィシャルサイト<<http://www.sakurako-flash.com/>>

[安部 保範]



おまけ: 桜子さんのショーを観て (by チャン助)

「うつのみや大道芸」3月23日(土)

『出たわねえ！ギョウザ大魔王！』という出だして観客の心をつかんでのパフォーマンス。

ショーを見て、“元気が出た”感覚を味わったのは久々でした。これがストリートならではの味わいだなぁ～(^^)と思いつつ、エンディングの一輪車上でのクラブジャグリングで舞い散った花びらを一枚拾い上げ、お財布の中にしまい込みました。まだまだショーには改良の余地はあると思いますが、あまり細かなことは気にせず、とかく閉塞感漂う今の世の中の暗いムードを吹き飛ばす勢いで、

このまま突っ走って下さい！どんどんやっちゃって下さい！

そんな声援を送りたくなるパフォーマンスでした。これほどまでにコンセプト(テーマ)が見える化されているのも珍しいです。衣裳や道具やその他の細かなところまで、本当に極々細かなところまでコンセプトに従って作られていたのにも感心しました。

確かに幅広い層の方々、老若男女問わずに受け入れられるキャラクターと構成に仕上がっていて、実際観客の中のおばさま達は『面白いわねえ』、子連れのお母さまはお子さんに向かって『かわいいわねえ』、ティーン世代の女の子達は『きゃっ きゃっ』言っているし、もち男性諸氏の視線も釘付けですし。

私含めて。(汗)



「春まつり/六本木ヒルズ」4月4日(金)

外に出て満開の桜の木を見つけると妙に安心しながらも、心も体も前へ前へと進みがちになる、そんなお花見日和の夕暮れ時、六本木ヒルズに「美少女戦士・桜子」がやって来るというので駆けつけました。今回の悪者は『花粉大魔王』でした。(^^) 見事花粉大魔王を退治した後は、最前列でキラキラ目で見たいちびっ子たちが一緒に写真を撮ろうと桜子さんに駆け寄ってはしゃいでいました。

「春まつり」というイベントの中でのパフォーマンス。多くの屋台が出ていて、カップルがいたり、家族連れがいたり、会社員たちが同僚と酒盛りをしたりと、思い思いに春の宵を楽しんでいる中、まさしく華を添えるようにひととき多くの声援を集めていました。



いきいき中年アマチュアジャグラー大集合！

ジャグパル JugPalはシニア世代を応援しています！なぜって、私自身がオジサンだから... (汗) と言う訳で、今回は世間の冷やかな視線も物ともせず、老化現象もなんのそのと、マイペースでジャグリングを楽しんでいらっしゃる以下6名50才以上のアマチュアジャグラー(敬称略)にお集まり頂きました。

はっちゃん(63才)、宮の助(58才)、直角(57才)、新井(54才)、チャン助(53才)、くろせ(50才)、

>>>>>【はっちゃんの場合】<<<<<<

はじめに(自己紹介)

芸名:はっちゃん

本名:鈴木八郎(63歳)

所属:備後大道芸研究所 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Ayame/8847/>>

演技回数:882回目(ホームグラウンドの福山競馬場・みろくの里は除く)

1. ジャグリングとの出会い

大道芸(日本)との出会いは15年前の1993年のことになります。世の中はバブル景気がはじけて、私が勤めていた鉄工関係の会社も例外ではなく仕事がめっきり減ってしまいました。私は団塊の世代に近く、働く事が趣味の人種でした。夜遅くまで残業していた時間がそっくり遊びの時間になってしまい、スポーツが苦手で、ドンくさく、グループ活動が出来ず、おまけにケチンボの私に何が出来ると言うのでしょうか。



寝転がって新聞を見ていたら、大道芸研究会(東京)の田村真理子(研究員)が、バナナの叩き売りを演じている特集が目に入りました。日本大道芸に特別興味があった訳ではありませんが、親父から香具師に騙された話を聞かされていたので、何だか面白そうで、私にも出来そうな気がしました。早速入会手続きをしたタイミングで東京の松尾英彦(研究員)がこちら(以前私が住んでいた府中市)へ転勤して来られ、その一年後には大道芸研究会幹部が竹原市忠海町ほほえみ天神夜市にやって来られたのです。

それからの私はバナナの叩き売り、心身不動竹割りの術、石立ての術などを習得し祭りやイベントのパフォーマンスで演技してお客さんに褒めてもらって、私はいつしか有頂天になっていました。そんな頃2000年5月にふくやま大道芸(福山バラ祭り協賛)の芸人募集に応募し、優勝めざして挑みました。優勝は出来なくてもきつと何かの賞に入るだろうと自信を持って演技しましたが、審査員のコールを聞くことはありませんでした。優勝をさらったのは地元広島出身のジャグラー・ペッパーゼロでした。

それからも日本大道芸の技芸に打ち込み、ふくやま大道芸の賞に挑むこと3年間、切絵たかし、水田安夫、回転の達人(中谷利夫)、トリプル建設、多くの知り合いジャグラー・芸人は出来たまましたが、入賞することはありませんでした。ペッパーゼロの火吹きパフォーマンスは出来なくても、せめて、お手玉が出来るようになりたいたと、そんな気持ちが芽生え始めたのが、2004年 私が59歳の春でした。

2. ジャグリング(大道芸)との付き合い方

お手玉もした事の無い還暦(60歳)の年令くらいの私です。一日の練習量は1時間もやるとあちこち身体が悲鳴を上げてしまいます。だから細切れに10分から15分を2回から3回にとどめています。それも技種は広く浅くをモットーに練習しています。だから、ディアボロ、デビルステッキ、シガーボックス、皿回し、傘回し、チンパランス、バルーンアートの基本技芸しかできません。(ドジで不器用なこともあります)日本大道芸(口上芸)も演技しているので、何時も頭の中では反復練習はかかせません。

3. 家族の反応

15年前に、大道芸を始めた頃には妻の猛反対にあいました。「何で人前に出てまで恥をかかなくてはならないの!」でした。しかし、長男(現在35歳)が「別に人に迷惑をかけている訳ではないんだから良いじゃないか」と言ってくれてやっと許されました。今は妻が会場についてきたらギャラの半分は渡すことにしています。ですから文句は一切聞くことは無くなり何時もついて来ますが、自由が利かない。(;-_-)

長男は5つボールをこなすまでになり、孫娘(3歳)はバルーンをお客さんに渡すことに恥ずかしくて戸惑っています。こうやって少しは人様に知られるようになると、大柄な態度や行動をしてはならぬと戒めています。

4. 所属サークルについて

私は常々同じ趣味や目標にする仲間が欲しいと思っていますが、仲間が多い事による制約は困るので、地元(福山市神辺町)の切絵芸人切絵たかしと2人で備後大道芸研究所を立ち上げました。今でも所員募集はしていませんが、知り合い芸人は悠に60人に増えて、必要に応じて連絡してはご一緒しています。



5. ホームグラウンド&演技場所

地域で知られる様になってからリピートして頂く場所がだんだん増えてきました。三世代テーマパークのみらくの里や福山競馬場ニコニコ広場には、年間を通して依頼されております。福山ニューキャッスルホテル、山陽道サービスエリア、尾道国際ホテル、老人会・子供会など多種にお呼びいただき、日曜日は必ずどこかで演じています。

6. 得意な演技種目

大道芸をはじめたきっかけが日本口上芸だったので、演技の前半は心身不動竹割りの術、石立ての術、またはディアボロ、デビルステッキ、傘回しなどの道具を使ったもの、後半はバナナの叩き売りでお客さんとの駆け引きの楽しみで構成することが多いです。道具も、こうもり傘、道路工事中コーン・山仕事用の鎌などで意外性を狙った姑息？な手を使って盛り上げています。ペースは常に笑いトークです。

7. ジャグリングを始めて良かったこと

人との出会いが増えたことは楽しいことです。この年齢になると限られた友人だけの付き合いになってしまいがちですが、若いジャグラーに刺激を受けて今日よりは明日と前向きに生きられ、少なくとも暇をもてあます事が無いのが何より良い事だと思っています。晩酌も控え目になりました。

8. これからの目標

自分自身の技芸を上げたいのは山々ですが、現状維持がやっとの身体で……。そんな私ですが、りんごをかじりながらのカスケードの安定性を高めたいです。その他の技芸も練習していきたいですが、今までに知り合った芸人をいろいろなイベント主催者に紹介していけたらと、まだまだ地方ではマイナーなジャグリングをメジャーなパフォーマンスにして行きたいと宣伝していきます。

2008年3月には福山市神辺文化会館、4月には竹原市忠海ほほえみ商店街へ大阪のジャグラー・スーパーアイドル星丸を迎える運びになり、これからも、どんどん仕掛けていき地方の活性化に役に立つ自分でいたいものです。

9. その他雑感

人様の事をとやかく言える私ではありませんが、演技をする上でモットー・大事にしている思いがあります。イベントは、

主催者と、演技者と、お客様が共に満足して成功したと言える。

良かった、楽しかったと言ってもらえる様に日々自分自身も楽しみながら研鑽しています。

[はっちゃん こと 鈴木八郎 <hachan8s@yahoo.co.jp>]

>>>>>> 【宮の助の場合】 <<<<<<

はじめに

「いきいき中年アマチュアジャグラー大集合！」ということで、ここに「宮の助(58才)」参上しました。私は横浜大道芸倶楽部(YDC)に所属しているお手玉けん玉のプレイヤーで、いわゆる洋ものジャグラーではなく、昔子供アソビです。2000年に横浜大道芸倶楽部(YDC)に入会し、8年たちました。横浜を中心に活動していますが、大道芸人にはまだまだなれない会社員です。

子供時代はメンコ、こま回し、おはじき、フラフープ、ちゃんばら、豆鉄砲、吹き矢、などイロイロ遊んでいました。今はジャグリングとギターで遊んでいます。

1. ジャグリングを始めたきっかけ

ジャグリングを始めたきっかけはテレビ番組「しあわせ家族計画」での「生たまごでお手玉」を見て興味を持ちました。宴会芸としてお猪口や徳利をジャグリングできるといいなと思いました。家でのおんびりしながら「しあわせ家族計画」のビデオを見ていたら、箆笥の上にほこりだらけの巾着袋が目にとまりました。それまで省みることのなかったもので、私の母親が作ってくれたお手玉の入った巾着袋でした。それが私のジャグリング人生のはじまりです。50才の秋でした。



毎日お手玉を練習をしました、なかなか出来ません。それでも続けるとカスケードが出来る様になりました。テレビでアパッチさんが優勝した「TVチャンピオン・ジャグリング選手権」がありビデオに撮ることが出来ました。小出さん、サリバンさん、カジャさんと石川さんの戦い、何回も技を盗もうとビデオを見ました。

ある日、横浜市の広報誌が家に届き2000年4月に野毛大道芸フェスティバルがあるとのことで、大道芸と言えばジャグリング、心待ちにしました。4月になり野毛大道芸フェスティバルを見に行きました。テレビで見たジャグラータちが大道芸をやっていました。大変感心を持って沢山の素晴らしい大道芸ショーを見ることができました。

そんな中、野毛の福富町公園でのジャグリングショーも見ました。なんだか変なのです。技は難しいことをやるので上手と思うのですが、すぐ落すので上手くないようで変なのです。ショーの最後に「私たちはアマチュアです。毎週近くの小学校の体育館で練習しています。興味のある人は来て下さい、一緒に練習しましょう。」と呼びかけてくれました。8年たったいまでも忘れられないフレーズです。引かれるように行ってしまいました。そこが横浜大道芸倶楽部(YDC)でした。



2. ジャグリングをやった良かったこと

木曜のYDC以外では会社の昼休みに竹芝栈橋で健康体操代わりに練習をしています。ジャグリングの効用としてそれまで大変辛かった腰痛が直りました。また会社で嫌なことがあっても練習をすると、くよくよ感が取れ、かなり気分が良くなりました。子供会イベントで小学生にけん玉、お手玉の指導しています。皆の笑顔がとてうれしいです。

3. 得た資格と賞

子供の頃メンコ、こま回しはしたものの、50才でジャグリングを始めるまで、ジャグリング系のもはやったことがありませんでした。知り合いが子供の時からけん玉はうまいんだと見せてくれ、YDCでは誰もけん玉をやってなく、けん玉こそ「ねらい目の隙間種目」と飛びつきました。

けん玉とお手玉は大きな団体があり、技の審査に通れば級段を認定してもらえることを知り、それを目標に練習を励むことができました。現在、日本けん玉協会の四段で公認2級指導員資格を取得、また日本のお手玉の会の六段を取得しました。

大会参加も多くいろいろ賞を頂きましたが、特にうれしかったのが昨年12月の全国統一カスケード大会(3ボールカスケード耐久レース)の3時間完投57歳での優勝でした。3時間右手の痺れと涙が出て前が見えなくなる自分の身体との戦いでしたが人生初めての優勝でした。

4. 中高年でこれからジャグリングを始める方へ

若い人のように短期間で上達は難しいかも知れませんが、練習を続ければかならず上達しますので始めましょう、続けましょう。割りりと環境の変化がすくないのが中高年世代のメリットだと思います。学生さんや若者達はジャグリングを上手になっても、進学、部活、就職、結婚で生活が大きく変わるため、やめてしまう人が多いようです。

またジャグリングはあまり身体に辛くない面白いスポーツなので健康体操のような効果があります。お金も余りかからず、練習会、イベントなどで若者と友達になれていいことづくめです。お互いジャグリングにがんばりましょう！

[宮の助 こと 宮崎安夫 <miyazakiyasuo@nifty.ne.jp>]

>>>>> 【直角の場合】 <<<<<<

はじめに

「いきいき中年アマチュアジャグラータ大集合！」ということで、声かけがあり参加させていただきました。

自己紹介ですが、ジャグリング歴は5年、所属は南流山ジャグリングクラブ、名前は直角(57才)と言います。団塊の直後世代であと少しで定年を迎える普通のサラリーマン。典型的な普通の日本の家庭の父親です。ジャグリング以外の趣味と申しますと、登山、アマチュア無線、子どもと遊ぶこと(冒険遊び場=プレーパーク)など色々手を出していますが物になっていません。

1. ジャグリングとの出会い

ジャグリングをやり始めたきっかけは、平成10年から地元の子ども相手に冒険遊び場を開催し、その中でお手玉や、独楽、剣玉などの色々な遊びを探している中で、ジャグリングに行き着きました。早々に100円ショップでボールと鳥の餌を購入し、偽ビーンバッグを製作し、遊び場でお手玉？ジャグリング？らしきことをはじめたのがきっかけです。



本格的にジャグリングの練習を始めたのは、平成14年にM氏から流山にジャグリングクラブを作るから参加しないかとの呼びかけがあり、道具を購入し始めました。

2. ジャグリングとのつきあい方

普段の練習は、寝る前に少しと、公園の片隅で週末早朝・夕方の2時間です。他の若いメンバーから見ると、1日の練習時間にも満たない時間で、上達のスピードは亀より遅いのではないのでしょうか。それでも、仕事、地域活動・趣味や家庭に費やす時間などを考えると、このペースが長続きしている秘訣だと思っています。

ジャグリングを始めた当初は、「また何を始めたのか？」と家族が怪訝な顔をしていました。しかし、あきらめずに約5年間も続けていると、昨年にはついに家族の職場のイベントにも招かれ、最近では気持ちよく毎週の練習やイベントにも出られるようになりました。

3. 練習について

南流山ジャグリングクラブは、平成14年に松戸、流山、柏市のジャグリング初心者の4名のメンバーから始まりました。現在、南流山駅そばの福祉会館体育室で毎週日曜日19:00～21:00に練習をしています。練習に参加するメンバーは、高校生、大学生、20、30、40、50代の10名前後で、初・中級者を中心に上級者まで、各人がマイペースに和やかな雰囲気の中で練習をしています。

50歳を超えてジャグリングをはじめるとあちこち体に支障が出ました。始めたころは、ボール、クラブ、リング、ディアボロ等、なんでも少しずつ練習をしてみましたが、ディアボロでひじの関節を痛めリタイア。右左腕の腕力や反応時間に差が障害になり、カスケードが綺麗にできないなど、体力・敏捷性など考えると同じレベルに達するのはあきらめています。しかし、出来たことを夢見て今も練習を続けています。

現在は、前から遊んでいた独楽回しを中心に、ボールとクラブを中心に練習をしています。

4. 演技場所について

当クラブは、社会人が多く土日のイベントへの参加が中心。2ヶ月に1回ぐらいイベントに参加するのが現状です。松戸常盤平「さくらまつり」、新松戸「なつまつり」などにメンバー3～5名で参加しています。

5. 演目について

ジャグリングの範疇に入るか疑問ですが、普通の独楽(鉄輪独楽、ブリキ独楽)は好きで遊んでいます。ツバメ返し、綱渡り、ひもかけ、腰掛け、肩掛け、指のせなど中級程度の技は一応出来ます。今もジャグリングの練習前に時間を作って新しい技に挑戦しています。

ジャグリングは5ボールまであとちょっと(この状態が1年以上続いています！)。クラブは4クラブに挑戦中というところです。良くぞここまで来たといった感じです。



6. ジャグリングをはじめて良かったこと

ジャグリングをはじめて良かったことは、私より若い数多くの仲間が出来たことで、ジャグリングの間は気持ちがとても若くなっています。また、姿勢、バランス、スピードなど年をとると急激に失われてゆく能力が、自分のペースで楽しみながら養われてゆくことではないでしょうか。

その反面、ジャグリングに時間をとられ、他の活動の時間的をどうしても削らざるを得ないため、始めのころは少々迷惑をかけてしまいました。現在は折り合いもついて、特に問題はないようです。

7. これからの目標

ジャグリングを始めたところからの目標「5ボール」が出来ること。最終目標は「5クラブ」が出来ること。いつになったら出来ることやら…。

8. ジャグリングについて思うこと

若手ジャグラーの技は、急速に進化しとても美しく素晴らしいと思っています。しかし、今ジャグリングを楽しんでいる若者が、趣味としてジャグリングをどれだけ続けられるか心配です。色々な趣味の世界でも社会人になり、子育てが始まると急速にその熱が冷めて離れていってしまいます。長続きできるジャグリングは何なのか、趣味としてのジャグリングは何なのか、技の高度化だけでなく技の見せ方の奥行きも広げつつ、大道芸の一部として見られている現状を打ち破って、ジャグリングのいつでも楽しめる趣味としての環境づくりが、今ジャグリングをしている人の使命と感じています。

ジャグリングは、どんな世代になろうと楽しめる趣味です。これからも長く続けてゆきたいと思っています。どこかで皆さんにお会いしたいと思います。その時はやさしく声をかけてください。よろしくお願ひします。

[直角 こと 石垣吉朗 <asobo@koma.104.net>]

>>>>> 【新井さんの場合】 <<<<<<

1. ジャグリングとの出会い

ちょうど10年前、44歳の時です。作家の島田雅彦と数学者のピーターフランクルの交友を話題にしたテレビ番組で二人が楽しそうにジャグリングを語っていたのを観て興味を持ったのがきっかけです。その後東急BEのジャグリング教室で習い始めてから、横浜でディックフランコのワークショップを観て感激してモチベーションが上がったことは忘れられません。

2. ジャグリングとのつきあい方

東急BEの石川健三郎先生のクラスで4年ほど習いました。その後仕事の転勤でジャグリングの機会が減りましたが、ボールはどこでもできるので今もヒマをみつけてときどきやります。会社では話題の中でジャグリングをやっていることを話すことがあっても実際に披露することはめったにありません。やはり正直言って、仕事の立場上でのテレもあって敢えて「ジャグリングやってる」と宣伝はしていません。家内は面白がってくれています。本人はやろうともしませんが。



3. 練習方法について

上達したいのならやっぱりクラスやサークルに所属しないとだめみたいな気がします。(私の場合...)

4. 演技場所について

東急BEでは毎年BEフェスタがあって3回ほどクラスのみinnで簡単なショーを披露した程度です。素人なりに人前で見せる難しさが少しわかりました。あと、単身赴任先の忘年会の余興で3ボールを披露しました。2~3分のルーティンでしたが余興として新鮮だったのかすごくウケました。

5. 主に使っている道具

ボールとクラブだけです。クラブはまだぜんぜん得意とは言えませんがカッコいいので好きです。

6. ジャグリングをはじめて良かったこと

一人でやっているととにかく楽しい。どこでもできる。この歳になるとこれからは老化現象の防止にはとてもいいのではないかと思います。左右対称の動きは整体療法的にもいいのではないかと勝手に思っています。

7. これからの目標

これからの私にとって、ジャグリングは年齢的、体力的に難しくなっていくかもしれませんが、今の私のレベルでは練習しだいでまだまだ上達できると思っています。偉そうなことを言ってしまいましたが、結局はやる気だいなんでしょうね。上達できる目標レベルとしては、理想をいうと例えば「5ボール100スロー」とか「クラブファウンテン(4本)」くらいですか、どんなにがんばっても、5クラブはもう無理かなと思っています。できたらすごいけど。

年甲斐も無く力技の目標ばかりをあげてしまいましたが、5つや4本ができなくても3ボールでの技を磨くという線でうまくなれば十分かもしれませんね。おじさんとしては。

P.S. 9歳のTY TOJO君ってすごいですね。日本のアンソニーガトーですかね。

[新井健一 <kenarai@jcom.home.ne.jp>]

>>>>> 【チャン助の場合】 <<<<<<

こんにちは。ジャグパル編集発行人の、チャン助こと安部保範(53才)です。

思えば小さい頃から演芸もの、特に「色物」が好きだったなあ。私の原点は昭和39年から日曜正午に放映されていた『大正テレビ寄席』。昼飯時で卵かけご飯を食べながら(^_^)よく見ていたものです。ちなみに「大正テレビ寄席の芸人たち/山下武著/東京堂出版」という本が刊行されているので興味ある方はご覧下さい。



高校卒業直後の春休みに、合格した大学の奇術愛好会の美しいお姉さま方による華麗なる演技をテレビで見て、是非一緒したく、入学と同時に即愛好会に入部したのが35年前のこと。

とある方にメキシコ製のペンシルバルーン十数本と洋書の教本を譲り受け、バルーンを宝石の如く扱いながら独学で覚えたアニマルバルーンを奇術愛好会の発表会で披露したのが32年前のこと。

とあるジャグラーの演技を見て、ジャグリングなんてチョロそうじゃん、宴会芸によさそうだと思って、ピンバグと教本を個人輸入して始めたものの3ボールカスケードが出来るまで四苦八苦して一ヶ月もかかってしまったのが約20年前のこと。

インターネットの商用化サービスが始まると共に加入して、サイト「見世物広場」を開設したのが16年前。

というように目新しい物に即飛びついてしまいがちですが、趣味が長続きする秘訣はやはり好奇心とほどよいミーハー心かと思っています。



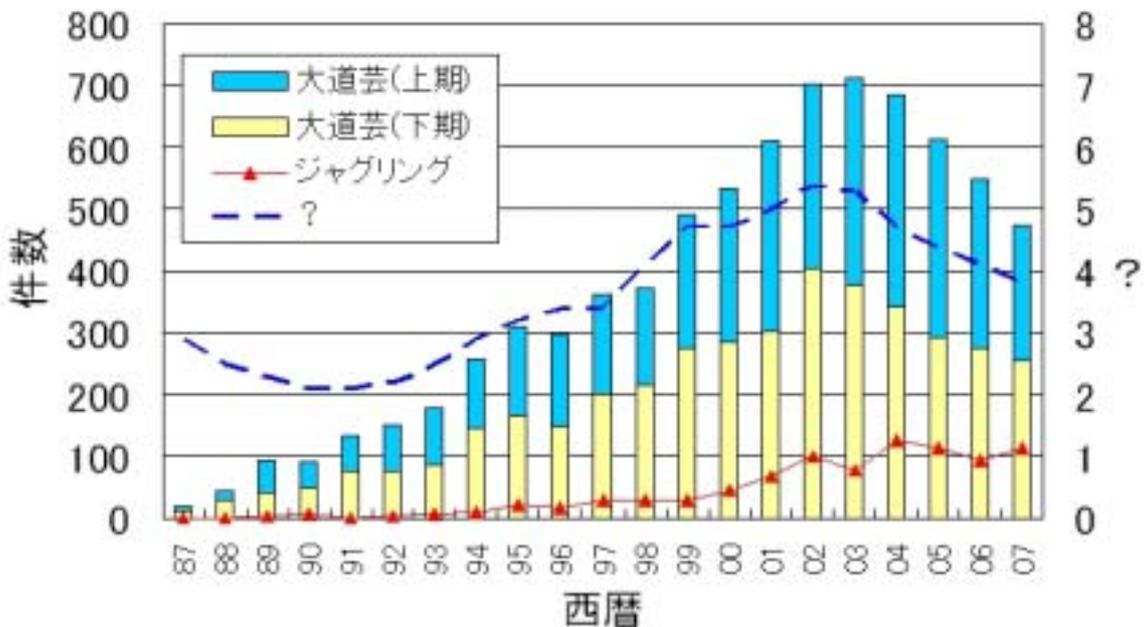
さて古い話が続いたので、ついでに恒例の記事検索結果をデータ更新したので紹介しましょう。これは1987年から2007年までに新聞(朝日、読売、毎日)で「大道芸」と「ジャグリング」という言葉がどの位の頻度で記事として登場したかを件数でグラフ化したものです。

「ジャグリング」はここ数年100件前後を往き来していますが、「大道芸」は2003年を極として下降線を辿っています。何故？

大道芸と経済活動は何らかの関係がありそうだと思います。大道芸曲線と相関性のある指標を探し出すべく、以下の指標データを時系列で調べましたが、ほとんどは20年の間に山あり谷ありを幾度となく繰り返し、グラフに波線で示した「？」の指標だけは何と大道芸曲線とほぼ同様な動きをしていることが分かりました。さてそれは何でしょう。以下からお選び下さい。答えはこのコーナーの最後で明らかにします。

『GDP、消費支出、新車販売台数、百貨店売上高、景気判断指数、消費者物価指数、有効求人倍率、失業率、新築住宅着工数、マンション販売戸数、第3次産業活動指数』

[チャン助こと安部保範]



>>>>> 【くろせさんの場合】 <<<<<<

くろせ(50才)と申します。

今、母親がはいっている救急病棟のロビーでこの記事を書いています。

母は心肺停止になり、病院で蘇生したのですが、いまだに危篤状態です。母親は認知症でした。認知症は若いジャグラーの皆さんにはまだ縁遠いものでしょう。今回は認知症の母とジャグリングの思い出話をしたいと思います。

私もジャグリングの練習を毎日行っていますが、半分は自分のため、そして半分は母親に見せるためです。

認知症である母親は、ジャグリングを見ると幼い子供のような反応を見せてくれるのです。私が練習するのは母親がはいっているグループホーム内で行える芸、それも失敗しても回りに迷惑をかけにくいものばかりとなっています。

私がジャグリングをはじめたきっかけは母とは関係ないものでした。

そのころ母親は既に軽度の認知症でグループホームに居住してもらっていました。私の母は60代半ばで認知症になりました。体は元気ですが物忘れがひどいというパターンです。グループホームに遊びに行くと会話をしていても、なかなか気をひきつけることができません。顔を見せること自体が親孝行だろーと思って続けてはいましたが、かなりしんどい状況でした。ところが、ボールで3カスケードができるようになったとき、それを母の前で実演したところ、母の目が吸い寄せられました。自ら「面白い!」とってくれたときはほんとに涙が出ましたよ。

それから後はホームに遊びに行くたびに、ボールを投げて見せるという日々が続きました。細かなパターンをみせるよりも体を大きく動かす方が受けがよかったですね。やはりボールのスピードに目がついていけないのでしょう。



しかし、どんなパターンをやってみせるより喜んだのが、ピンバグによるキャッチボール。母にボールを1個持ってもらって、私がカスケードをしてパッシング!それができなくなると私が2個持っている状態に投げ入れて貰ってカスケードを始め、少したって1個投げ返す。それもできなくなるとボールを1個だけ使ってキャッチボールしていました。体を動かすのが楽しいようで、何を見せるよりもキャッチボールの方が喜ばれました。喜ばれるのは嬉しいのですが、ちょっと複雑な心境でしたね。

ホームに遊びに行くたびに、私の芸の進歩の早さと母の認知症の進行の早さの勝負を行っているようなものでした。頑張ってもちょっとずつ負けていってボールではあまり目をすいよせられないようになってしまいました。

ちょうどそのころ始めたのが傘回し、これは物が大きいだけに見やすいようで、また目をきらきらさせて見られるようになりました。ホームで他の居住者の方々にお見せしたところ、大人気!新年にはちゃんとした衣装で、ホームの各フロアで傘回しパフォーマンスをするようになりました。一番受けたのが柁の回しわけ、四角い柁がま～るく回るんですからインパクトがあるのでしょう。

認知症が進むにつれて、私の拙い芸ではなかなか意識をこちらへ向けることが難しくなりました。それでも今年の正月に芸を行ったときは少しはこちらを見ていてくれました。もしジャグリングを始めていなかったら、間違いなく何年も前に母親とのコミュニケーションが途絶えていたと思います。来年の正月には花籠鞠を見てもらえればと思っていたのですが、どうやらそのチャンスはなさそうです。



ジャグリングに限らずなんらかのエンターテインメントを自らの体で行えることが、幅広い年代とのコミュニケーションをとる良い手段であるのでしょう。親の介護が課題となる中年世代にこそジャグリングをお勧めします。

中年の皆さん、今からでも遅くありません!そして若い人たち、その技術が必要になるまで決してジャグリングをやめないでくださいね。

【くろせ <kurose@gmail.com>】

>>>>> チャン助からのクイズの答え <<<<<<

答えは「失業率」です。右側のY軸が率(%)を示します。全くの偶然の一致でしょうけれど、中世に職を失った人たちが河原乞食として生活の糧を得るために諸芸を行っていたことが大道芸の発祥と考えるならば、何となく因縁みたいなものを感じます。(註:大道芸人を中傷しているものではありませんので、誤解無きよう。)



太神楽曲芸の会 (8月14日/国立演芸場)

太神楽曲芸協会の創立七十周年記念公演。柳貴家正楽社中による「末廣一萬燈の建物」、鏡味仙三郎社中による「花籠鞠の曲(どんつく)」など見所満載でした。でも私の一番のお目当てはザ・ラッキー幸治・舞さん、そしてボンボンブラザーズ。何回観てもラッキー師匠のくわえバチによる土瓶回しの芸には鳥肌が立ち、何回観てもボンボンブラザーズの細長い紙によるバランス芸には大笑い

ストリートギャングたちの休日 (8月15日/東京都児童福祉会館ホール)

カンボジア・サーカス学校の日本公演。主催者である「NPO法人国際サーカス村協会」がカンボジアにあるNGO組織PPSを訪ねたのは今年の8月の事でした。PPSでは教育活動として絵画、音楽そしてサーカスを地元の子供たちに教えていて、今回はその生徒さん達が来日したわけですが、正直作品の完成度の高さには驚かされました。

ストリートチルドレンの休日をサーカス芸と伝統楽器による演奏でユーモラスに明るく演じています。アクロバットを中心としながら、ポールやディアボロなどの道具を使ったジャグリングもストーリーの流れを損なうことなく演出されています。アクロバットとジャグリングのレベルの高さには、PPSでの行き届いた指導の様子をうかがい知ることが出来ます。ストーリーの面白さや演技にマッチした民族楽器演奏の素晴らしさも十分に楽しめましたが、一番印象的なのは演者である子供たちのはつらつとした元気と笑顔でした。

ストリートギャングたちの休日 (8月16日/東京都児童福祉会館ホール)

昨日に引き続き二回目。ん～、実に良くできている。暖かな気持ちになれます。なるべく多くの、特に子供たちに見てもらいたい作品でした。

美術展/解き放たれたイメージ サーカス展 (8月16日/損保ジャパン東郷青児美術館)

多くの芸術家がサーカスを作品のモチーフとして創作してきました。本展は27人(フェルナン・レジェ、マリー・ローランサン、マルク・シャガール、ジョルジュ・ルオーなど)の国内外作家によるサーカス・イメージの作品を約90点出展していますが、これだけまとまって鑑賞できて非常に刺激になりました。

本展開催にあたっては、私のサイト「見世物広場」が多少なりとも参考になったと学芸員の方から連絡を頂き、学芸員の研究成果とも言える図録にも紹介頂き恐縮しています。こんな光栄なことはありません。

tomoko 夏コンサート (8月24日/横浜市栄区民文化センターリスホール)

tomokoさんの思いがそのままストレートに響いてくるような、温かくも力強さを感じさせるコンサート。数百人で一杯になる小ホールでの演奏のおかげで、ピアノ、ギター、ベース、ドラム、パーカッションとそれぞれの演奏者の表情が、そして音のひとつひとつが手に取るように身近に接することができ、自分もパーティーの一員になったような気持ちに浸れました。

パッチ・アダムス講演会 2007 (8月25日/パシフィコ横浜 国立大ホール)

知る人ぞ知るパッチ・アダムスの講演会。テーマは“What is your Love Strategy?” “愛の戦略”って何だろうと興味をそそられ足を運びました。

世界を見渡しても、いやもっと狭く日本社会、いやもっともっと狭く勤め先や地域や家庭などを見ても様々な問題が溢れかえっているのが現代社会で、何とかしなくては、何とかしなくては、と思いつつも日々の生活に追われて何もせずにいるのも現実です。“愛の戦略”とは、何もせずに憂いているのではなく、お互いを思いやり“愛”を広げることが大切ということで、ただ愛がどんなに素晴らしくても、愛を具体的な行動とすることでその力が発揮される訳ですが、人それぞれ置かれた環境が異なるのだから、その人その人の等身大で出来ることからまず始めればよいと自分なりに解釈しました。

何をすればよいのか、どんな行動を起こすことが出来るのだろうか、人それぞれに考え一歩を踏み出すことが“愛の戦略”なんですね。

ちなみに感化されやすい私は「チャイルドスポンサーシップ」に加入しちゃいました。(汗)

ユーミンスペクラクル シャングリラ (9月12日/代々木第一体育館)

三回目。何度観ても飽きない。「コンサートであり、サーカスであり、シンクロナイズドスイミングであり、そしてそのいずれでもない。」そして「シャングリラは日々進化している。」とユーミン自身が言っているように、見所満載だし、7月の横浜公演(2回鑑賞)と比べると所々演出に手が増えられていて、確かに進化している。本当に飽きさせません。ユーミン、ブラボー！

MUTTONI THEATER ムットニー シアター (9月15日/松屋銀座8階大催場)

“ムットーニ”と言ってもイタリア人ではなく“武藤政彦”さんという日本人です。元は油絵作家でしたが、徐々に立体作品を手がけるようになりました。インタビュー映像の中では、何故立体化したのか？に対しては「油絵で何千ものキャラを描いていて、彼らが窮屈そうに感じ枠から出してみた」と答え、何故動かしただのか？に対しては「たまたま彼らをターンテーブルに乗せて回してみたら光が動き興味を持った」と答えられていました。

現在の作品は"オートマタ(自動人形)"と呼ばれるものですが、お茶を運んだり宙返りしたりと奇をてらった作りではなく、人形が入った箱という劇場の中でひとつの物語が展開していく、BOXシアタータイプの作りとなっています。人形自体の動きは非常に単純ですが、箱の中で様々に変化する光は朝晩や、あるいは宇宙を表現し、どの作品もとても奥行き深く見入っていると箱の中に吸い込まれていきそうです。

展示会ではムットー二さん自身が作品の持つストーリーを語ってくれるのも一興です。ストーリーは観客が思い描くものとは言うものの、本人の思いを語った解説付きだとよりその世界に溶け込みやすいというのも事実です。

第49回テンヨーマジックフェスティバル(9月23日/日本橋三越劇場)

アマチュアからプロ、若手からベテランまでが集まるフェスティバル。アンさん(韓国)のカードは、迫力といひスピード感といひ、ほうここまで来ましたか、ミリオンカード!(古くさい言い方だ)と驚き。BRINUM-X(ラトビア)のお二人は、シャボン玉とマジックとの融合と聞き期待していたのですが...シャボン玉がガラス玉に変化する程度のマジックで、シャボン玉パフォーマンスもイマイチ。witty look...おっ、チハルさんの新しいユニットにここでお目にかかれるとは!一輪車だと聞いてはいたのですが、スタイルがどう変わろうと相変わらず可哀しい

画業50年 牧進展(9月23日/三越日本橋本店)

牧進さんは日本の四季の移りゆく中に、花鳥風月や山川草木の美を見出し、世界に類のない日本の四季~春夏秋冬~の美をひたすら描き続けています。

米米CLUB 再々感激祭「ホントマツリ」編(10月6日/国立代々木競技場第一体育館)

米米CLUBのコンサート初体験ですが、恐らく観客のほとんどはコンサートに度々足を運んでいたファンの方々なのでしょう。曲毎に振り付けや掛け声も決まっていたし、持っている物(応援グッズ?)も皆一緒だし、何だか私って場違いの感も... (汗) しっかりカールスモーキー石井さんのトークは芸人顔負けの上手さで観客を笑わせ引きつけます。ありゃ凄い。

三雲いおり「砂漠にかかる虹」(10月16日/シアターX(カイ))

バラバラ状態の三人家族を三雲さんが一人三役で演じています。妄想を抱いた引きこもりの息子、家族を顧みないけれど結構寂しがり屋の飲んだくれの父、家事はそれなりにこなすけれど引きつけに近いストレスを自分一人で解消している自閉気味の母親...ラストシーンで、家族の体をなしていない三人は濁流にのみ込まれてどうなったんだろう、流されながらも父親の「皆でがんばりましょう!」のやけに明るい叫び声は何だったんだろう...様々な想像が巡りますが、断水だった水が蛇口の下に置かれた水槽にしたたり落ちて、瀕死状態だった金魚がその中で復活して再び元気に泳ぎ始めるところに、三雲さんの「生きる」という力強いメッセージを受け取ることが出来ました。

ひょっとしたらこの「金魚」が希望を意味する「虹」のことを示唆しているのでしょうか。とにかくこの「金魚」はこの公演ではひとつの大切なキーとなっているように思えました。こういった一人舞台は大変ですが、これからは是非チャレンジして貰いたいものです。

映画「ヘアスプレー」(10月20日/MOVIX本牧)

実に楽しいコメディ&ミュージカル映画 席に座っていても思わず身体が自然に動いてしまいます。ジョン・トラボルタの変身ぶりにはビックリ仰天!

映画「この道は母へとつづく」(11月1日/渋谷Bunkamura ル・シネマ)

孤児院で育った少年が、裕福な家の養子になることを拒み自分を捨てた母親を捜す旅に出る、という実話をベースにした映画。正直最初はダレ気味でしたが、大人たちの打算的な思惑と単純に母親を慕う少年の気持ちの両方に傾きつつも、あれやこれやと考えて徐々に物語に引き込まれていきました。

中日文化・スポーツ交流年 閉幕式公演(11月18日/東京国際フォーラムホールA)

きっと通産省、文科省絡みかと思っていたら、やはり挨拶で副大臣級が出てきて、かつ副官房長官や御手洗経団連会長まで壇上にいたりして、「中日文化・スポーツ交流年」っていうのは、政官財をまきこんでのこりゃあ大層な国家行事だと驚きました。

延々と日本と中国のお偉いさんの挨拶が続き、一時間後に公演が始まり、演者は中国青少年芸術団。幸いなことに公演自体は、雑技や踊りや京劇や合唱やら5~10分位の演目が入れ替わり立ち替わり演じられて飽きませんでした。雑技は集団ディアボロとボールジャグリング(with タップダンス)。ジャグリングは7ヶのトスと9ヶのバウンスを演じ、レベルの高さを感じました。

かまくら名人劇場 よったり寄ったり競演会パート2(11月23日/鎌倉芸術館 小ホール)

笑福亭和光「狸さいころ」、桂あやめ「義理ギリコミュニケーション」、笑福亭鶴光「鼓ヶ滝」、柳家さん喬「天狗裁き」、三遊亭小遊三「引越しの夢」。桂あやめさん...女性の噺家です。面白かった!

中国雑技団「龍鳳伝説」(12月7日/中野サンプラザ)

いやいや久しぶりにこれぞ雑技!といった雑技らしい演技を堪能することが出来ました。何しろ最近の雑技ときたら、「デコ電」じゃあるまいし、やたらと舞台を訳もなく飾り付けたり、何匹目かのドジョウを狙うが如く「シルク・ド・ソレイユ」を崇めてみたりと、「ちょっと、ちょっとお~」といった感じていたから、今回の公演はシンプルであるが故に演技が光っていて良かったです。

春風亭小朝独演会2008 (2月10日/鎌倉芸術館 大ホール)

滝川鯉斗「動物園」、春風亭小朝「宗論」・「目薬」、林家ひろ木「読書の時間」、春風亭小朝「涙をこらえてカラオケを」。小朝師匠の上手さには恐れ入ります。マクラは様々な時事ネタで次から次へと機関銃の如く観客を笑わせて、観客の心を掴んだ頃合いを見計らって、いつの間には本題に入り込む、その絶妙のタイミングには、してやられたりと感心しきり。

BLUE MAN GROUP IN TOKYO (2月11日/インボイス劇場 (専用劇場))

これはコンサートと言ってもいい感覚のノリの良いステージ。観客とインタラクティブに楽しむために、次から次へと目新しくユニークなアイデアで仕掛けてきます。主に映像とのコラボレーションは面白いと言えば面白いのですが、映像と音楽(ロック)の過剰とも言える演出が、これでもかこれでもかと続き、溢れんばかりの演出が露出して、ある意味疲れます。なにしろウリの文句が『サルでもハマるオモシロさ!』ですもの。人間は創造するのは好きだけれど、想像も好きです。至れり尽くせりの過剰な演出には想像する余地が欲しいものだと、昨日楽しんだ落語という芸能との余りの違いを感じていました。

こまつ座第84回公演「人間合格」(2月15日/紀伊國屋サザンシアター)

井上ひさしさん作、鶴山仁さん演出。久々の演劇鑑賞。太宰治の半生を、戦争という時代の波に翻弄されながらも、夢を追い続ける二人の男たちとの友情を織り込んだ評伝劇。井上ひさしさんの戯曲では、言葉の持つ優しさと力強さが深く染みてきます。

横浜ダイヤモンド地下街イベント (2月16日/横浜ダイヤモンド地下街)

マジシャンのからくりどーるさんと、ジャグラーのKAZUHOさんを観ました。KAZUHOさんは相変わらずスタイリッシュで格好いい!

ふくろうじ"出口あり" (2月19日/シアターX (カイ))

今までは「椅子」との遊びにこだわり続けたふくろうじさんの初のソロ舞台。路上生活者を演じる彼がどんな遊びを見せてくれるのか楽しみでした。路上生活者の営みの雰囲気がよく出ていたと思います。「生活」に疲れ切ってはいるけれども、ちょっとしたことに喜びを見い出したりして、決して「生きる」ことには諦めていない、そんな生活者…おっと何だか路上生活者とはいうものの、普通のサラリーマンを表現しているとも言えますね。

期待通り意外な物(ペットボトル、新聞紙、ゴミ、紐、あるいは看板等々)との戯れ(遊び)については、どれもよく考えられていて楽しめました。でも器用にそつなく遊べば遊ぶ程、過去に見た誰かからの同様な演技と対比をしてしまいます。言い方を変えるならば、ふくろうじさんの戯れ方がまだ完全にオリジナルなもの、自分なりに昇華しきれていない証かもしれません。

あー、あれこそがふくろうじの遊び方なのねという雰囲気、魅力、そんなものももっともっと感じられると良かったのですが、全体的にはふくろうじさんの持つふわっとした透明感が良く出ていて暖かな仕上がりになっていました。

tomoko 08 "My Home Is You" (2月22日/横浜市栄区民文化センターリリスホール)

相変わらずの澄んだ歌声の中にも力強さを感じさせる tomoko さんのコンサート。実力があながら地元(栄区本郷台)を大切に、地元で度々コンサートを催してくれています。息子と娘の卒業した中学校と一緒に出身ということもあり応援しています。

マジックバー「十二時」(3月6日/銀座)

マジックバーは三回目。バーでのマジシャンというのは、酒の席ということを考えると、アクの強さがある意味必要かも。見るからに妖しそうな...そんなタイプの方が盛り上がるみたい。でも誰も彼もがアンビシャスカードを"見せたがり"ですなぁ~。これもテレビの影響かしらん。

映画「いつか眠りにつく前に」(3月7日/日比谷みゆき座)

死の床にある女性がもうろうとする意識の中で人生を振り返る話。映画って観る人の歩んできた人生によって感じ方は異なると思いますが、それなりの年齢を重ねた私にとっては、とても胸を打つものがありました。深~く自分の人生を振り返ってしまうような作品ですが、エンディングは希望が持てる明るいものでした。『人生に"過ち"は無い。』というメッセージと共に人生の味わいを描いていて、とても気に入りました。

いけばな協会展 (3月10日/銀座松坂屋)

百数十点のいけばなが展示され、まさしく春爛漫。

池田洋介×目黒陽介 PLAY (3月14日/門仲天井ホール)

最初の演技で、池田洋介さんと目黒陽介さんとの二人で中国武術での武器「三節棍」のような道具を使ってのやりとりは興味をそそられなかなか面白かったですが、それ以降はソロの演技が交代で続き、全体を通して振り返ると濃淡、緩急を余り感じさせないどちらかというのっぺりとした平坦な印象を受けてしまう舞台でした。

目黒さんはパニックを起こしたメス状態での動きの中でのボールジャグリングを披露していましたが、動きが小刻みに小さく、あえてそういった表現にチャレンジしたのでしょうか、以前見られたような流れるような滑らかな動きとは対極にあり少々戸惑ってしまいました。

池田さんは映像とのコラボの方向に気を向け過ぎではないでしょうか。マジックのテクニックも少なからず見られマジシャン志向ともとれてしまいますが、あの方向性では池田さんの綺麗な身体の動きをいかした身体表現との兼ね合いが難しいかなと感じました。

Cirque Buskers Company 公演「nose」(3月19日/スタジオ P.A.C)

出演者は、じょ～むす今川さん、しおじやりさん、ひいろさん、Cheeky さん、鶴岡アキラさん、GENさん。サーカスクラウンが失意の元、テントを離れ駅のホームで電車に乗り遅れ、クラウンの象徴である赤鼻をゴミ箱に捨てた時から、夢の国に入り込んで赤鼻を探す旅に出るといったファンタジー仕立ての舞台。蒼々たるメンバーが揃い、それぞれの持ち味を生かし、大人数ながらよくまとまったなぁ、大変だったろうなぁ、というのが率直な感想。

でもストーリーはステレオタイプであり、世の中のサーカスクラウンに対するイメージは何十年前前から変わっていないようです。演出者・演者にはもっといろいろなサーカスを観て欲しいです。国内のサーカスのみならず、海外に行ったら是非現地でサーカスを探し出してでも多種多様なサーカスを観てもらいたい。

サーカスを観に行く時の高揚感、テントに足を踏み入れる時の何故かしら不安が入り交じったワクワク・ドキドキ感...そんな楽しさを押し出したサーカスを描く舞台があっても良いと思うのですが、相変わらずの視点に少々がっかり。自分なりの新しい発想でのサーカスを表現してもらえればと思いました。

桂歌丸一門会(3月20日/逗子文化プラザ)

「付付(ぶす)、桂花丸、「牛ほめ」桂歌若、「宮戸川」桂歌助、「井戸の茶碗」桂歌丸。歌丸師匠は「間の取り方」がなんて上手いんだらう。「井戸の茶碗」は、屑屋が貧乏浪人宅と武家屋敷を行ったり来たりと主人公の行き来が非常に多いのだが、場面展開(場面の切り替え)を「間」だけで表現してしまう、その上手さに感動すらしてしまった。素人芸ならば、場面展開をナレーション風に説明したり、あるいは屑屋が移動中に本人に喋らせるとか、そういった手を使いますが、そこをコマ数秒の「間」をもって、屑屋が場所を移動したことを表現し場の空気を変えてしまい、話を続けるという、これぞまさに名人芸。

うつのみや大道芸(3月22日/宇都宮)

観たパフォーマーは桜子さん(2回)、潮木祐太さん、小林智裕さん。潮木祐太さんの演技は初めて拝見しました。3クラブ 3ボールの約10分間の演技。ひとつのプロップ(道具)が宙を舞っている時、落ちてくるそのコマ数秒の間も惜しむかのように、両手にあるプロップを持ち替えたり、くるくる回したりと、いやはや歌丸師匠のコマ数秒の「間」と同じく、名人のコマ数秒にかけるこだわりを思い知りました。

小林智裕さんの演技も初めて。コンタクト ディアボロ リングの約15分間の演技。潮木さんといひ、小林さんといひ流石と言うか、私は今のジャグリング技術に取り残されているので、正直どこが凄いのかわかりませんが、周りにいたマニアであろう人たちが「おっっ！」と叫んだ時のトリックが凄いんだらうなぁと思うのが精一杯でした。

オーケストラ(3月31日/渋谷NHKホール)

首都圏のオーケストラ11団体の演奏家たちによるこの日(3月31日は「ミミにいちばん！」でオーケストラの日)のためのスペシャルプログラム。

歌劇「ルスランとリュドミラ」グリーンカ、「アランフェス協奏曲」ロドリゴ、「管弦楽のためのラブソディ」外山雄三、「春の祭典」・「サーカス・ポルカ～サーカスの小象のために」ストラヴィンスキー。おっ！このサーカス・ポルカは面白い！楽しい！凄く雰囲気が出ている！アランフェスの第一楽章を聴いていたら何故かジャグリングシーンが思い浮かびました。結構ボールなんかと相性良いかも。ジャグラーはBGMに非常に気を使いますが、最近の若い方が使われる音楽の中には私のようなおっさんには耳障りなものも(失礼！)あるようで、クラシック系の音楽なんてのはどうだろうか。

[安部 保範]

編集後記

春の到来に相応しい「桜子」さんのインタビューは如何だったでしょうか。私が書くとうちにもカチコチの文章になってしまい桜子さんの弾むようなお喋りのキラキラ感をお伝えできないのが残念です。

3月9日付けの新聞の片隅に載った小さな一枚の写真を見て大変な衝撃を受けました。

消防服を着た人が燃えさかるグランドピアノに向かい演奏しているという写真。これはジャズピアニストの山下洋輔さんが石川県志賀町の海岸で行ったもので、ピアノへの感謝と供養の思いを込めた表現活動だそうです。世界的なピアニストによる活動のためかマスコミの評判も上々のようでしたが、私自身釈然としません。35年前にも同様なパフォーマンスをして映像芸術作品として残しているようですが、当時とは世の中の状況もまるっきり変わっているし、今再演する意味合いは何だったのでしょうか。「芸術活動」という言葉だけでは納得できず、様々なことを考えさせられました。

そう言やー、ロックフリークだったおじさん(私)にとっては、ジミヘンがギターを燃やしていたのはよー覚えているわい。あん時も度肝を抜かれましたが。

ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行して、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人に関係しているものではありません。

編集発行人: 安部保範(神奈川県横浜市栄区 在住)

Webサイト JugPal<<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

見世物広場<<http://www.chansuke.net>>

E-mail:misc@chansuke.net